2025年3月吉日
学校法人一里山学園　一里山幼稚園

2024年度　自己評価・学校関係者評価報告書

1　本園の教育目標

① のびのびと明るく心身ともに健康でたくましい子どもに育てる
② 頑張る精神を身につけ創造力豊かな子どもに育てる
③ 教育の原点である「ありがとう」という感謝の心や「ごめんなさい」が素直に言える子どもに育てる

2　本年度、重点的に取り組む具体的な目標

◇「子ども主体の保育」の継続
◇基本的な生活習慣の徹底
◇充実した環境構成
◇運動能力の向上
◇安全管理体制の徹底
◇特別支援が必要な園児と保護者への適切な対応

3　評価項目の達成と取り組み状況

評価項目	結果	取り組み状況
「子ども主体の保育」 の継続	B	○ 目標を掲げて3年目になる「子ども主体となる保育」は、各学年で日常の保育の中で具体的な計画を立て、全学年が年齢や特徴に合う取り組みを行った。 「自分で考える力」「他人の意見を認めようとする力」が徐々につき、子ども間の相談や話し合いによる決定事項が増え、行事にも取り入れた。その結果、自分達で作り上げていくプロセスを楽しみ、達成感を味わい、その姿を保護者にも共有できた。
運動能力の向上	A	○ 歩かない子どもが増え運動能力に個人差がある為、体育指導事業所を変更した。指導日を増やし園との連携を密にし、日常での取り入れ方を学び実践していった。段階的な指導により、鉄棒、跳び箱、縄跳びなどのコツをつかみ、努力しようとする多くの子どもの姿が見られるようになった。運動会で年長は短縄、年中は大縄、年少は縄くぐりをしたが、終了後に上の学年の跳び方に挑戦する子どもがいた。 ○ 一日一回は外遊びをするように計画し、冬の間は、曜日を決めマラソンを行った。 ○ 少し遠い公園に行き歩く機会を増やしたり、園庭とは違う高低差のある場所で走り回り遊んだりすることで自然に体力がついてきたように感じた。
基本的な生活習慣の徹底	A	○ コロナ禍で徹底された感染症対策を園で継続するとともに、習慣化されている手洗いやうがい、食事前の手指消毒などを続けていった。 ○ 「○○ちゃんどうぞ」「ありがとう」が言えたり、「ごめんね」が素直に言えたり、自発的に挨拶が出来るようになる為に、この3年間の継続が肝心で丁寧に言い続けていった。 ○ 幼児期に身に付けておきたい食事マナーとして、箸やスプーン等の持ち方や使い方、食べる際の姿勢など、個々に気になる場面で指導や声掛けをしていった。
安全管理体制の徹底	B	○ 災害時を想定し火災避難訓練を年間1回・地震訓練を年間3回行い、災害時に命を守る行動や大切な約束等を子ども達に伝え、保護者の引き渡し訓練も実施した。 ○ 非常時持ち出し袋の中身を点検、補充を行った。 ○ 防犯対策として園庭周りにフェンスにシェードを取り付けた。 ○ 事故等の緊急事態発生時の対応について研修を受け内容を全教職員が共有した。
充実した環境構成	A	○ 家庭の廃材(牛乳パックや箱類、カップ類等)を集め、自由に選び自由に制作が出来るように廃材を置く場所を設けた。課題として整理整頓が必要である。 ○ 園庭で花や野菜を育て、観察し水やりをし、収穫したものを持ち帰った。 ○ 草花で色水遊びを楽しみ、室内でもマジックペンを使った色水遊びに発展した。
特別支援教育	A	○ 県の子育て支援事業「キンダーカウンセリング」を14回計画し臨床心理士による園児の考察を共有し、関わり方など専門的な知識を学んでいる。 ○ 対象児がストレスなく園生活が送れるよう心理士の助言を参考に、保護者とも内容を共有し、コミュニケーションを図るよう努めた。

評価結果の表示
(A…十分に達成されている　B…達成されている　C…取り組まれているが成果が不十分　D…取り組みが不十分)

4　総合的な評価結果

結果	理由
A	上記課題については学年毎に話し合いを重ね、行事前には担当者を中心にミーティングを開き教職員が意思疎通を図ることで、取り組んでいった

5　今後取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み方法
子ども主体の保育の継続と共主体の保育の取り組み	園児の考えを尊重しながら、更に子ども主体の保育を継続し発展していくための環境構成を子ども達の特徴も踏まえ、その時々で考えていく。子ども・保育者・保護者がワクワクする園(共主体)を目指す。お当番活動の内容を見直し、お友だちの「いいところ見つけ」の発表を取り入れていく。保育を見える化できるようにインスタグラムを検討中。
子育て支援	少子化の影響で園児数が減少傾向となっている。次年度は6月より満三歳保育を実施し、広く園の特徴を知って貰うと共に、時代のニーズに合った出来る限りの事を検討し実施していく。他、春休み預かり保育の4月実施、給食回数の増加(選択制)、課外学研教室開始を検討中。
異年齢交流	満三歳児が入園することもあり、お世話したり教えてあげたりする優しい気持ちが芽生える良い機会になるであろうとの考えで、更に異年齢交流を増やしていく。
特別支援が必要な園児と保護者への対応	特別支援を必要とする園児の早期発見に努め、保護者への丁寧な対応を行う。対象児に必要な配慮の方法をカウンセラーや保護者、現場の教職員で共有していく。

6　学校関係者評価委員会の評価

◇子ども主体の保育について

・具体的にどの様な保育なのか気になっていたが、入園後様々な場面において子どもの意見を聞き、考えさせ、子ども達で話し合う点を大切に考えていただいた。子どもも幼いながらに自分の意見をしっかり持つようになりお友だちや周りの話に耳を傾けるようになっている。

・行事の中身を子どもたちで話し合う時に、自分の意見を出したり時には相手の意見を受け入れるために自分の感情を我慢する事も覚えてくれたのが嬉しかった。人間関係において起こり得る出来事を保育中のソーシャルな場で学ぶことができたことが有難かった。

◇異年齢交流について

・クラス関係なく活動する事や異年齢交流によって、協調性を育んでいることが目に見えて感じ取れ保護者としても嬉しかった。他学年のお友だちが出来てよかった。預かり保育も異年齢で楽しく過ごした。

◇運動能力向上について

・体育指導で以前より体の使い方が上手になったように思う。縄跳びや鉄棒など、出来ることが増えた。

・運動の苦手な子でも各種目(跳び箱、マット、鉄棒、縄跳び)が出来るようになるための前段階からの動きのメニューに取り組んでくださった。

・運動能力に差があっても、楽しく取り組める内容でとても安心してお任せ出来ると思う。

・身体を動かす時間がとても多く、また年少の早い段階からお散歩が頻繁にありとてもありがたい。遠足も少し遠いあらきの森公園になり子供たちは楽しかったと思う。

◇廃材制作について

・廃材を使った自由制作がとても楽しかったようで毎日のように色々なものを作って持ち帰っていた。ブロックよりも自由度が高い分自分で制作できていたいたように思う。

・お菓子の箱など材料を探すこと自体が子どものとっては宝探しみたいなものなんだと、今後も続けてほしい。

◇その他

・先生方が子どものことをよく見てくださっていて。子どもの課題を見つけ、それを乗り越えられるように対応してくださりとてもありがたかった。

・一里山幼稚園がとても楽しかった。感謝の気持ちでいっぱいです。